

第2期徳島市総合戦略全般への意見

資料 7

| 委員No. | 意見 |
|-------|---|
| 1 | <p>コロナ禍であっても施策方針1の子ども・子育て支援の推進は、様々な制限がある中だったと思いますが、ほぼ目標値を達成されており安心しました。子育てには、「待った」も「後で」もないからです。</p> <p>施策方針3の交流の促進と施策方針4の誰もが活躍できる社会作りの事業実施については、残念ながらもろに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてしまいましたが、やむを得ません。アフターコロナに期待したいと思います。</p> <p>コロナ禍という不測の事態が起きてしまいましたが、今後はこの状態を逆手に取って情報発信の仕方の見直しやSNSなど若者との繋がりに力を入れて事業を推進していく事も一つの方法では無いかと感じています。どんな時代であっても何が起っても柔軟に対応していけることもこれからの行政には必要なのかもしれない。私たちもしっかりと責任感を持って協力していかなければと感じています。</p> |
| 2 | <p>4つの基本目標のもと、徳島市の持続可能な地域づくりが進められていることに敬意と感謝を表すものです。</p> <p>人口減少が進む中で「人生100年時代」を迎え、2040年には徳島県は49%が構成者世帯、その内単独世帯が40%と推計され、まさに「高齢者お一人様地域社会」が到来します。そうなったときに、例えば様々なインフラの維持コストの上昇をどのように押さえていくのか、ゴミの回収は誰が行うのか、高齢者用の住居は確保できるのかなど、行政の最前線として「市」の明確なビジョンが描かれていることがたいへん重要となります。</p> <p>まさにこれからの総合戦略は、「現在世代のニーズを損なうことなく、将来世代のニーズを満たすこと」を根幹として、小さな地域コミュニティは自立力、自律力を高めていかなければなりません。限られた資金、人材、資源で、新しい「公共」をつくり、Beyondコロナの生活スタイルを構築するためには、総合戦略に記載された事業の思い切った見直しや方向転換を進めて頂きたいと思います。</p> |
| 3 | <p>・総合戦略の進捗状況について、“基本目標3「徳島市の強みを生かした、にぎわいと活気のあるまち」の実現”にかかわる事業は、おそらくCOVID-19拡大の影響を直接的に受けたものと推察される。短期的には、コロナ禍での事業対応、とくにオンライン化が求められるように思われる。また、並行して、コロナ終息後の展開に向けた準備と投資も重要であり、域内での地域資源の開発や広報活動は継続的に実施していく必要があるだろう。</p> <p>・質問で恐縮だが、総合戦略の進捗状況全般に関して、各事業におけるKPIの「実績値」、「地方創生への効果(事業の効果検証)」、「令和3年度の予算額」との関係について教えていただきたい(関連性があるのか、ないのか)。</p> |
| 4 | <p>徳島市の地方創生推進事業は、他の自治体との連携事業と、徳島市独自の事業によって形成されていますが、いずれもコロナ禍の影響を大きく受けており、事業の進捗が厳しい結果となったように感じました。しかし、ポストコロナ社会において、地方は大きなチャンスとの到来であるとの認識も必要ではないでしょうか。国では地方移住を推進しており、都会暮らしの人々は、地方回帰の気持ちが大きくなり、U/IJターンの大きな流れがやってきました。まさに、今、徳島市での暮らしの魅力を明確にしインパクトをもって発信し、移住促進支援事業を推進していただきたいと思います。そのための、多くの人々が共感できる、徳島市のビジョンの確立を急がなくては、他の地方都市に出遅れてしまうと思います。</p> |
| 5 | <p>・創業支援や子育て支援などは他の市町村でも力を入れていると思いますが、近隣の市町村と比較して徳島市の支援内容の強みや課題はどういった点だと思われますか。</p> |

| 委員No. | 意見 |
|-------|---|
| 6 | <p>コロナ禍の中、当初の計画通りに進められないので、多くの事業がB評価以下となったのは仕方ないと思う。コロナが終息するのにもうしばらく時間がかかる(場合によっては深刻化する可能性もある)と思われる。特に市民参加型の事業(企業体験ツアー、防災訓練、市民防災指導員育成など)についてはリモートを積極的に活用するなどの検討が必要。</p> <p>目標値が累計になっている事業については評価年度のみ達成量も記してほしい(例えば橋梁耐震化事業)。</p> <p>「文化・芸術活動の推進」事業のうち、オーケストラ合同演奏会では参加人数が少ないためにC評価としているが、コロナ禍で当初計画値を達成するのは無理がある。一方で「地域子育て支援拠点事業」では計画値に対して大きく下回る実績値であるにも関わらずコロナ禍を考慮してA評価としている。事業によって評価方法が異なるのは感心しない。コロナ禍での評価方法を統一することが必要。コロナ禍での事業評価は難しいが、例えば募集人数に対する参加者数の「割合」も考慮するなど、KPIの柔軟な運用を考えるべきである。</p> <p>「市民のニーズに対応した価値ある医療の提供」では、目標値(分娩件数660件)に対して実績値(同550件)をもってB評価としているが、需要が目標値以内であり、需要全てに対応できていたのであれば市民のニーズを満たしているのではA評価で良いと思うがどうだろうか。</p> <p>「医療人材育成事業」はD評価となっている。実習生の受け入れが難しいからと募集人員を安易に削減するのではなく、徳島大学の担当部署との綿密な打ち合わせをして多くの学生が参加したくなるような前向きな工夫は難しいだろうか。</p> <p>「障害者見守りネットワークの構築」の「障害者」は「障害者」あるいは「障がい者」と表記するのが望ましい。この事業での「協力」とは具体的に何を指すのか明示して欲しい。</p> <p>「子育て応援・支援団出前事業」はC評価となっているが、計画値(登録者160人)を上回る実績値(同161人)となっている。これをKPIとするなら、A評価で良いのではないだろうか。イベント開催数を重視するのであればKPIの変更をするのが良い。</p> <p>「生活排水対策事業」では、『水質の見える化』が鍵になると思われる。あるいは水質改善対象としている河川において「〇〇が棲める川づくり」といった具体的な目標設定を行い、その実現を目指した活動を展開してはどうだろうか。</p> <p>「下水道施設改築更新事業」について、地球温暖化の進行にともなう大雨の激化が心配されている。下水道は内水災害を防ぐ重要な手段であるので、施設整備の一層の拡充をお願いしたい。</p> <p>「地域防災力強化事業」は避難支援マップの作成だけでなく、その作成の途上でコミュニティ内の協力関係づくりや防災意識の向上にも役立っている。外部からの問い合わせも多いと聞いている。初年度に作成した津田・新浜地区のマップは完成後10年が経過するが、新しい県営住宅や高速道路、避難場所等の整備が進んでおり、その更新が必要である。</p> |
| 7 | <p>当戦略自体はまだ第2期であり、またコロナ禍という特殊な状況であるためそれぞれの基本目標の現時点での達成度については評価せず今後を期待したい。徳島の住み易さと同時に地方に住みながら大都市への仕事上のアクセスの利便性の向上(ICT、DX等)をアピールするべきでは？基本目標4の数値目標についてどのぐらいの数の回答に対して79.9%なのか教えてください。</p> |
| 8 | <p>どうしてもKPIが求められるが、補助金にこだわらないで コロナ後を予想した新しい戦略を考えた方がよい。 例:人口密度の低い「都市」が安全である。「余裕のある市」をアピールする。</p> |